



謹賀新年



新年のご挨拶

社会の変化に対応できる地域活動を

光岡公民館運営委員会 会長 高瀬博



新年あけましておめでとうございます。校区の皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

まず、毎年の様に繰り返される災害では、令和三年七月から八月にかけての記録的な「長雨」、「大雨」で大きな災害となりました。

中でも七月三日の「熱海市伊豆山地区での大規模土砂災害」では多くの方が犠牲となり、「ここに、被害に遭われました方々に心からの哀悼とお見舞いを申し上げる次第でございます。

日田地区に於いては、過去の度重なる豪雨災害が頭をよぎり、心配していましたが、災害も無く、胸をなでおろした所でございます。

さて、世界規模で猛威を振るっている「新型コロナウイルス感染症」はピークを越えたように見えますが、ロシア、ヨーロッパ、韓国等を中心に「ブレイクスルー」による感染者数が再び増大しています。

それに加えて、今、南アフリカなどで確認された「新変異株オミクロン」が、これから更に世界規模で爆発的に増えるのではないかと危惧されています。(令和三年十二月中旬)

国内では、昨年の三、四月～十月にかけて第一波～五波に及び、私達の日常生活や公民館活動、自治会活動は大きな影響を受け続けております。

これからインフルエンザとの同時流行、第六波にならない事を願っております。

光岡公民館では二十三の自主学习教室については、ほぼ全教室で基本的な感染対策をしながら活動を再開しております。

しかしながら、全体的、かつ主要な活動につきましては、残念ながら殆んど活動ができませんでした。

今後の全体的な活動につきましては、感染状況を見極めながら、適宜再開していきたいと考えています。

これからの社会は、新型コロナウイルスに象徴される未知のウィルスとの闘い、地球温暖化、デジタル化と超高速通信網の更なる進歩、オンライン、リモート、AI、自動運転、ロボット、SDGS、人口減少社会等、私達の居住環境は飛躍的な進歩と変化し続けて行く事でしょう。

この様な情勢を踏まえて、今後の地域コミュニティの核となる「公民館活動」、「自治会活動」は、目まぐるしい社会の変化に対応出来るか否かが今、問われていると思います。

難しい課題ではありますが、公民館運営委員会が中心となり、小中学校、育友会、自治会、行政とも連携して、知恵を出し合い、楽しく住みやすい街づくりの活動を推進して行きたいと思っております。

今後とも、校区の皆様方のご理解ご協力を賜ります様お願いいたします。

新しい年が希望に満ちた年でありますように、ご祈念申し上げます、新年のご挨拶にかえさせていただきます。